

滋賀から スタートアップの機運 を創り出す

2024.2.3 SATURDAY

EVENT 13:00 START AFTER PARTY 18:30-20:30

当日プログラム

開始時間 コンテンツ

13:00	オープニング・演奏	16:10	スタートアッププレゼン
13:05	あいさつ	16:45	外へ飛び出すことの必要性（トークイベント）
13:30	SHE STORY（講演）	17:35	名刺交換会（守山市役所にて）
14:05	オープンイノベーションの場作り（トークイベント）	17:55	クロージング・あいさつ
15:15	滋賀から飛び出してみたスタートアップの可能性	18:30	交流会（アイドリックにて）

登壇者一覧



福田 恵里 SHE株式会社 CEO/CCO
上原 仁 株式会社マイネット 会長
森中 高史 守山市 市長
安藤 正道 株式会社村田製作所 事業
インキュベーションセンター長
松永 和彰 株式会社ANOBABA
アソシエイト
伴 貴史 エフコード/クックビズ

...and more

UP STREAM DAY REPORT

企画背景・ポイント

- ➡ 大津財務事務所では、これまでも「起業家の集まるまち守山」をビジョンとして掲げ、起業支援などの各種取組みを進める守山市との連携を深めてきたところです。（直近の取組み模様については、ちほめんニュース「[Vol.109](#)」、「[Vol116](#)」、「[Vol120](#)」を参照ください）
- ➡ そうした中、スタートアップやベンチャー企業が地域課題解決に向け挑戦するために、地域を挙げて機運醸成や体制構築することを目的として、滋賀県・守山市出身の起業家、県内を代表する企業、これらを支える支援機関やVC（ベンチャーキャピタル）、行政などが一堂に介して、知る機会、繋がる機会を得られるイベントを開催することとなりました。
- ➡ 当事務所も「近畿財務局」名義にて、後援団体として本イベントをサポートしました。

イベント概要

名称：**UP STREAM DAY**

日時：令和6年2月3日（土）13:00～18:30

場所：守山市役所 1階多目的ホール

主催：守山市

共催：滋賀経済同友会

後援：**近畿財務局**、近畿経済産業局、滋賀県、守山商工会議所、公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

運営：しがとせかい株式会社

プログラム：左記のとおり

当日参加者：234名

はじめに



はじめに、守山市長 森中 高史氏、滋賀県知事 三日月 大造氏 及び著書『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』で有名な株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充氏から開会のご挨拶がありました。（※三日月知事及び出雲社長はビデオメッセージ）

§ 1 SHE STORY



メインプログラムの最初に、SHE株式会社 代表取締役 福田 恵里氏より、「SHE STORY」と題して、SHE株式会社を創業するまでのご自身の経緯や、起業する上での重要なポイントをご講演いただきました。

プロフィール

滋賀県近江八幡市出身。大阪大学在学中、米サンフランシスコ・韓国に留学。学生時代に女性初心者向けのWebスクールを立ち上げ、約500名以上が受講。卒業後、リクルートホールディングスに入社し、ゼクシィやリクナビのアプリのUXデザインを担当。2017年(当時26歳)、ミレニアル女性向けのキャリア支援を行うSHE株式会社を設立。主要事業である「SHElikes」は累計受講生7万名以上を突破。2020年に同社代表取締役CEOに就任。日本最大級のスタートアップカンファレンス「IVS2021 LAUNCHPAD NASU」で優勝。

主なポイント

○ 在学中、大前研一氏の著書に触れたことを機に、**自身の環境を変化させる大切さ**に気付き、米サンフランシスコへ留学。留学先では、パソコンひとつで働く同年代の起業家たちに感銘を受けた。帰国後、女性初心者向けのWebスクールを立ち上げ、500名以上の受講生を輩出。その経験が、SHE株式会社立ち上げの原点（起業の着想）となった。

○ 東京と近畿圏では人口比が1.4倍程度である一方、資金調達額比は13.7倍も違う。滋賀の魅力は、すべて（自然、人口、都市へのアクセス）がちょうど良い点。しかし、居心地が良いからこそ、現状維持的な思考になりがちになることはある意味デメリットでもある。そうしたコンフォートゾーンを抜け出すことが大切で、**外に飛び出して変革を起こそうというイノベーションのマインドが滋賀にはまだ足りない。**

○ 私たちが持っているアセットを適切に評価、PRして、イノベーションを起こせる人材を呼び込むために、**「令和の近江商人」モデル**を提唱している。県内だけではなく、**県外の人材を巻き込みながら、令和の近江商人があふれる街にするためのブランディングプロジェクト**（例：インキュベーションの創設、ファンドの組成、学生起業／インターンの創設等）を**起こす**ことも一案。

○ 「令和の近江商人プロジェクト」を本当に実現させるために大事なことは、**「自分たちだけで全てをやろうとしない」**こと。内外のステークホルダーを巻き込んで、個々人の「点」ではなく「面」で取り組むことが大事。各人がエコシステムの中でこういった役割（スタートアップ側or支援者側）を担っているのか意識しながら、**「チームSHIGA」**で盛り上げていきたい。

§ 2 オープンイノベーションの場作り



主なポイント

Q1. オープンイノベーションを成功させる秘訣は。



(安藤氏)...オープンイノベーションの活用は、大企業の間で17~8年前から言われるようになったものの、各企業が「アイデア」という知的財産を外に出したくないという思惑もあり、一堂に会したところで結局何か生まれるわけではなかった。**オープンイノベーションを成功させるには、会社を超えた仲間作りが大切。**また、情熱や意思を持って人はたくさんいるが、**技術を伴わないと何も生まれないため、技術力も必要。**



(小林氏)...**とにかく、すぐ動く。**車のアクセルを底が抜けるくらい強く踏み込んで、底をぶち抜いたら車のボディを担いで、自分の足で走る、そんな気持ちで取り組むイメージ。また、**交流会でも名刺集めをせずに、合いそうな人に1人出会えたらOK。**その人には、後日アポイントを入れて必ず会いに行くのがオープンイノベーションのコツ。



(森中氏)...官民連携のオープンイノベーションがうまくいかなかったのは、行政がリスクを取りたがらないから。行政は税金によって事業を行うため、成果が必要となることから、「(成功するか不透明だが)とりあえずやってみる」ことができない。**トップが責任を取らないと部下はやらない。「まずは試しにやってみる」というマインドセットが必要。**

Q2. オープンイノベーションを起こすために大切なことは。



(小林氏)...(自身が地方に出向した経験から)地方では、スタートアップに対して「浮ついた」イメージが根強い。地域社会は良くも悪くも保守的なので、**トップが「これ(スタートアップ起業)は大事なことで、なんだ」とメッセージを発信することが大切。**組織の上層部が「乗れる勝ち馬の尻」を作ると、部下も付いてきてくれる。

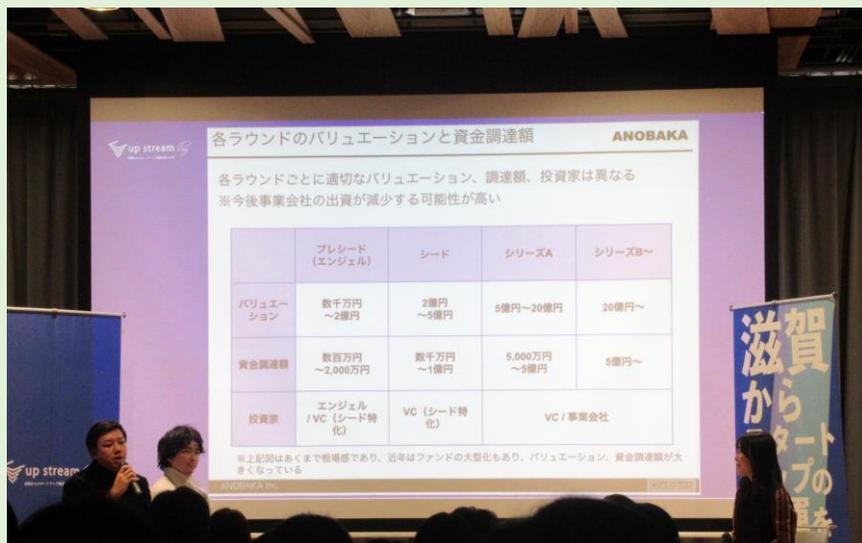


(安藤氏)...日本で活躍している企業は創業80~100年程度で、200年以上続く企業数は世界でもトップクラス。そういう会社は、「理念」を大切にしている。オープンイノベーションを起こすには、社内での意識醸成、技術向上に取り組むだけではなく、外部の声も取り入れる必要があるが、**「理念」のバランス(変えてもいいところ、ダメなところ)をとることも大切。**何でも変えたらいいわけではない。



(森中氏)...**企業連携のための窓口(担当課)を作り、スタートアップへの伝手を作る**こと。その際、市長(トップ)は様々なステークホルダーと出会うので全体的な相関図を俯瞰できるが、担当者レベルでは関係者との接点が限定され、全体を俯瞰できない可能性もあるので、担当レベルを含めてアンテナの感度を高く持つことが重要。また、**企業と「とりあえず連携」しておくという考えはあまりよろしくない。「『特定の分野に特化しているor強みがある』から『こうした連携がしたい』」というスキームで動く方が、オープンイノベーションを進展させやすい。**

§ 3 滋賀から飛び出てみたスタートアップの可能性



続いてのトークセッションでは、株式会社エフコード/クックビズ株式会社 伴 貴史 氏 (写真左端)、株式会社ANOBACA 松永 和彰 氏 (写真左から2人目) が登壇され、「滋賀から飛び出てみたスタートアップの可能性」をテーマとした議論が繰り広げられました (モデレーター: タレント/株式会社Relays代表 田ヶ原 恵美 氏 (写真右端))。

主なポイント

Q1. 2人は滋賀出身だが、滋賀を出て本日このイベントのため滋賀に帰ってきた。滋賀を出て得られた気づきは。



(伴氏)...インターネットが普及して、触れられるものは東京も滋賀も変わらない。ただし、**スピード感が東京と滋賀では異なり、東京の起業家は1週間会わないだけで様々なインプットを次々に身に付けている。**膨大な情報を咀嚼し、解析する作業を一人でこなすのは不可能なので、それをカバーするためのネットワークを活用するという意味では、東京に進出する意義はある。ただし、今の時代はリモートが発達しているため、**どこで事業を始めるかは大した問題ではなく、東京でも滋賀でも、自分がやりたいスピード感で取り組むことが出来る**のは良い点。



(松永氏)...**自分にとっての衝撃を受けることが大切。外に出てみて、「このくらい頑張らないと生き残れないんだ」「このくらい頑張らないと成長できないんだ」という衝撃を他者から経験できると、自身の成長のための良い刺激になる。**

Q2. スタートアップを「地方創生」への活用という側面ではどのように見ているか。



(伴氏)...**スタートアップは速度(時間軸)が重要。**時間を買うために資金調達を行ったりするので、地方創生という側面のスタートアップはあまり想定していない。一方、**地方創生自体は重要視しており、地方創生が成功している地域を数ヶ所訪問したが、成功のポイントとして感じた点は2点。**1つは、**外資系企業等が上手くいった先行地域をコピーして新しい地域で再生させていること。**もう1つは、**地域内で出し惜しみしていたアイデアを10~20年のスパンでソフトにまとめていること。****滋賀は後者を活用して地方創生できるポテンシャルがある**と感じており、先行的に成功している瀬戸内地方等を参考にしながら、取り組む余地があると感じている。



(松永氏)...**リソースの集中が大切。**様々な地域で地方創生が取り組まれているが、ヒトやカネを結集させる必要がある。また、**自分たちが持っていない要素を外部からいかに取り込めるか**が地方創生を成功させるポイント。

Q3. 起業を考えている人から、どのような起業相談であれば受け入れられるか。



(松永氏)...**「とりあえず相談したい」という思い**があれば受け入れる。事業アイデアを練るところからでもお手伝いできる。



(伴氏)...**その人が持っている情熱や意思**に興味がある。**経歴の裏側にどんな思いを抱いているか、流行物に流されず、中長期的な「思い」を持ち続けることが大切。**

§ 4 外へ飛び出すことの必要性



最後のトークセッションでは、SHE株式会社 代表取締役 福田 恵里 氏（写真左端）、株式会社マイネット 会長 上原 仁 氏（写真左から2人目）が登壇され、「外へ飛び出すことの必要性」をテーマとした議論が繰り広げられました（モデレーター：しがとせかい株式会社 代表取締役社長 中野 龍馬 氏（写真右端））。

主なポイント

Q1. 2人は滋賀県出身で県外に飛び出したが、良かった面や感じたことは。 Q2. 滋賀県の起業家が成長するためには、若いうちに外に出る必要があるか。



（福田氏）...リクルート社在籍時に出会った社是を通じて、**自分をアップデートし続ける必要**があると感じた。**現状維持は衰退と同義で、同じスキルのままだと世界から取り残される。自分自身を取り巻く環境を変化させる機会を自分で切り開いていくことが大切。**



（上原氏）...今回の登壇者は偶然、全員が海外留学経験者。感度の高い学生時代に、自分自身に変化を与えて変わっていく力が大切。**外に出ることのメリットは「強いヤツに出会える」こと。実力のある人と常に触れ合える環境に身を置くと、自分も成長している実感が楽しくなる。**



（福田氏）...滋賀県に関係しない事業を考えているのであれば、一旦東京に出るべき。



（上原氏）...この地域の事業者と連携した方が良いなら残った方がいいが、ほとんどのケースは外に出た方がいい。東京には世界第3位の証券取引所があるが、東証のメリットは日本語のまま世界の金融市場にアクセスできる点。これは絶好の機会なので、利用しない手はない。東京にいなくても利用は可能だが、**東京には起業家が山のよう****に集積していることから、「カネ」だけではなく「ヒト」や「モノ」の情報に数多く触れる機会があるというメリットもある。**また、自身が金融市場とのコネクションを持って滋賀に帰って来れたことは嬉しいが、自分だけでは不十分。この流れが今後20年程続けば、滋賀にしながら世界にコネクトし続けることができるエコシステムが醸成される。

Q3. 金融機関、支援機関、行政がすべきことは。



（福田氏）...一義的なニーズは資金援助だが、「ヒト・モノ・カネ」でいうと、一番大事な要素はヒトであり、**ヒトに基づくネットワーク（起業家コミュニティ）が構築されていることが大切。**滋賀県ではそうしたネットワークはまだ構築されていないように見える。



（上原氏）...**支援側が何か「変化しましょう」というよりは、支援側の人にもわくわくしている感じ（ポジティブなオーラ）を持ってほしい。**また、「一回外に出て、成長して20年後に帰ってこい」といった感じで外に出る後押しをしてほしい。

Q4. 起業家へのメッセージ

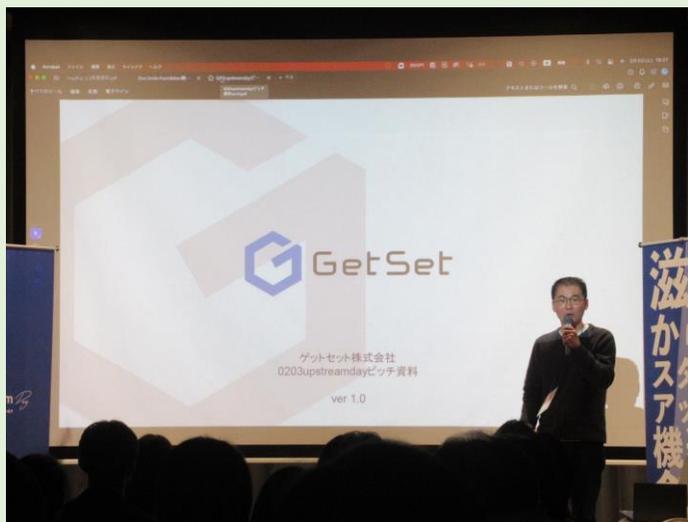


（福田氏）...**今、起業を考えていない人も1回は起業を考えてみてほしい。自身のアイデアをオーガナイズした上で、他者へ付加価値を与えるような体験は絶対プラスになる。**



（上原氏）...**地元を好きであればこそ、地元を出てほしい。外で成長して戻ってくると、より地元に貢献できると思う。**

§ 5 スタートアップピッチ



§ 4 「外へ飛び出すことの必要性」のセッションの前には、スタートアップ企業4社によるピッチイベントも開催されました。（紙面の関係上、内容は割愛させていただきます）

おわりに



最後に、滋賀経済同友会 代表幹事 櫻田満氏より閉会のご挨拶があり、5時間近くの長丁場に及んだイベントは、無事終了しました。

その他



守山市役所でのイベント終了後には、市役所近くのカフェ「idyllic(アイドリック)」にて、登壇者、参加者、事務局等を交えた交流会も開催され、大いに盛り上がりました。

近畿財務局大津財務事務所は、今後も地方創生、地域活性化のために、関係機関と連携しながら、様々な形で貢献できるよう取り組んでまいります。



※ イベント当日の様様（ダイジェストムービー）をYouTubeで閲覧できます。
(https://youtu.be/-6QBmnpF58g?si=o2b5ngOuAn5_Lm7l)

※ 守山市ホームページにも概要が掲載されています。
(https://www.city.moriyama.lg.jp/sangyo_business/kigyouka/1002986/1008998.html)